

日本語ドキュメントの外国語化を、実績のない会社に発注してはいけない理由

パンフレット、マニュアル、製品カタログ、そして Web サイト・・・

言うまでもなく、これらは企業の理念や商品情報を伝達する上で、非常に重要なツールです。

ところが日本企業の英語版メディアには、翻訳したテキスト（コピー）を、日本語版のフォーマットにそのまま流し込んでいるだけのものが多く見られます。それだけでは英語版メディアとして不十分なだけでなく、英文コピーやレイアウトに関するミスが多発する恐れがあります。海外に向けてアピールしようとするなら、日本語の世界とはまったく異なるノウハウが必要なのです。

ところが、日本の上場企業や世界的にビジネスを展開するマルチナショナル企業の英語版ウェブサイトでも、驚くほど初歩的な文法上、表現上のミスが散見されます。どんな言語であっても、企業の宣伝戦略の要である Web サイトやパンフレットの言葉遣いや表現には間違いのないのが当然で、明らかな誤りがあるということは、大変恥ずかしいことです。

英文表現上の誤りだけではありません。Web ページの制作段階においても、ミスが多発する傾向があります。なぜなら、英語のテキストをページ中に配置する作業は、英語の解らないオペレーターによって行われるからです。その結果、スペースを空けるべき箇所が空いていないので読みづらかったり、正しい語順を考慮せずにテキストを配置したため意味不明な英文になってしまっていたり、といったミスが頻繁に発生します。しかも、その状態のまま公開されているのです。そのような事態を防ぐためには、Web ページの作成が完了したら、公開に先だって改めて校正を行う必要があります。

漢字の誤変換や文法ミス、不適切なレイアウトが放置されたままの日本語 Web サイトが堂々と公開されていたら、サイトを訪れたお客様はどのような印象を抱くでしょうか？

英語の場合でも、事情はまったく同じなのです。にもかかわらず、英語版の制作となると、なぜか企業側の監修／校正は特に甘くなる傾向にあるようです。それでは海外へのアピールどころか、企業にとってのマイナス要素になってしまいます。本来ならば、英語という言語を正しく理解して使用できないのなら、英語版メディアを扱うべきではないのです。別の言い方をすれば、英語世界の組版ルールに精通していないのなら、英語版のドキュメントを作成してはならないのです。

次ページより、英語ドキュメント作成における、よくある間違いの例と解説を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

よくある間違いの例

間違った英文

Introduction of Low Emission Vehicles

XXXX Co.,Ltd. continues its innovation with the introduction of "low emission vehicles" into its service fleet. A survey conducted in June 20XX, revealed that 40 ~ 50% of vehicles owned by companies and organizations were low emission vehicles^{※1}, a vast increase over the approximately 19% in the fiscal 20XX survey.



正しい英文

Introduction of Low Emission Vehicles

XXXX Co., Ltd. continues its innovation with the introduction of "low emission vehicles" into its service fleet. A survey conducted in June 20XX, revealed that 40-50% of vehicles owned by companies and organizations were low emission vehicles^{*1}, a vast increase over the approximately 19% in the fiscal 20XX survey.

何が間違っているのでしょうか？

Point 1

カンマの後は、半角スペースを空ける。

誤 Co.,Ltd. **正** Co., Ltd.

カンマ(,)の他に、ピリオド(.)、コロン(:)、セミコロン(;)、カッコ([],())なども半角スペースを空ける必要があります。

Point 2

引用符は、半角引用符(" ")ではなく、英文引用符(" ")を使用する。

誤 "low emission vehicles" **正** "low emission vehicles"

半角引用符(" ")は、HTML(Web)等で使われているものになります。
英文組版では、使用してはいけません。

Point 3

英文組版では、波線(~)は使わない。

誤 40~50% **正** 40-50%

範囲を表すために用いられる波線(~)を英文組版で表す場合は、enダッシュ(-)を使います。

Point 4

英文組版では、米印(※)は使わない。

誤 ※1 **正** *1

注釈などで使用する米印(※)を英文組版で表す場合は、アスタリスク(*)を使います。

日本語組版でもルールがあるように、英文の場合にも決まった組版ルールがあります。日本国内で見かける英文組版には、書籍だけでなく、Web サイト、装幀、広告などでも、残念ながら、ルールを知らずに組版されているものをよく見かけます。

下記の例もよくある間違いですので、ぜひご覧ください。

間違った英文

Natural gas-powered terminal shuttle bus

Reducing CO₂ Emissions from Service Vehicles

Our company is pushing ahead with its Eco - Drive campaign, reviewing its service fleet requirements and replacing vehicles with low emission models*1.

*1 Low emission vehicles: Natural gas vehicles, hybrid vehicles, electric vehicles and approved low fuel consumption/emission vehicles



正しい英文

Natural gas-powered terminal shuttle bus

Reducing CO₂ Emissions from Service Vehicles

Our company is pushing ahead with its Eco-Drive campaign, reviewing its service fleet requirements and replacing vehicles with low emission models*1.

*1 Low emission vehicles: Natural gas vehicles, hybrid vehicles, electric vehicles and approved low fuel consumption/emission vehicles

何が間違っているのでしょうか？

Point 1

単語と単語をつなぐ場合は、ハイフン(-)を使用する。

誤 gas-powered **正** gas-powered

単語と単語をつなぐ場合は、en ダッシュ(-)ではなく、ハイフン(-)を使います。

Point 2

単語と単語をつなぐ場合、ハイフンの前後はスペースを空けない。

誤 Eco - Drive **正** Eco-Drive

単語と単語をつなぐ際に、ハイフンを使用する場合は、前後はスペースを空けません。

Point 3

コロンの前はスペースを詰めて、コロンの後は半角スペースを空ける。

誤 vehicles : Natural **正** vehicles: Natural

通常、コロンの前はスペースを詰めて、コロンの後に半角スペースを1つ入れます。また、セミコロン(:)も上記ルールが適用されます。

ちなみに、和文フォントのコロン(:)を使用しているケースを見かけますが、英文組版では、和文フォントは使用してはいけません。

最後に

このように、高品質な英語版ドキュメントを制作するためには、英語組版の豊富な知識にもとづいて、レイアウト上の修正点をていねいにチェックする必要があります。

また、お客様に英文をご提供いただく場合、上の例のように英文そのものにも修正点が見つかるケースが多くあります。その際にはお客様にご報告し、ご確認いただいた上で修正を行いません。こうした作業を丁寧に行うことで英語ドキュメントとしての品質を高めることができるため、お客様から高い評価をいただいております。

熟練したプロでなければ分からない英語組版のルールや、英文の改善ポイントは数多くあります。当社では翻訳部はもちろん、英語ドキュメント制作のノウハウを熟知している DTP オペレーターも制作しつつ校正を行いますので、より効果的な「翻訳と DTP の連携」を実現しており、より正確な英語ドキュメントを作成することができます。

日本語版をベースにしたカタログ・パンフレット・マニュアル・Web サイト等の英語版制作をお考えの際には、ぜひお問合せください。